

新入生・上級生・教員の
三方一両得(©筒井
康隆)を目指して

平成27年2月18日

新潟大学経済学部

准教授 澤村 明

この発表は、新潟大学経済学部経営学科における授業科目「大学学習法（スタディスキルズ）」を3年越しで改善した中間報告。

新潟大学では、大学新生向けに「大学での学習の仕方」を教授する目的で「スタディスキルズ」を複数学部で開始……

この5年ほどは経済学部と医学部保健学科のみ（他学部は科目名変更の可能性あり）。

経済学部概要

経済学科：昼間コース160名＋夜間主コース25名

経営学科：昼間コース105名＋夜間主コース15名

合計305名

教員一人当たり学生数（収容定員）

経済：32・経営：25

ちなみに

人文：14／法：15（LS教員含む）／教育：14.5

経営学科スタディスキルズ（平成24～）について

1. 1年次1学期に2単位科目（週1回）として開講。
2. 全員履修（必修ではない）。
3. 昼間コースは1クラス18～20名、6クラス編成。
4. 夜間主コース・1クラス。
5. 学科教員がローテーションで担当するほか、大学教育機能開発センター教員、図書館職員も参加。
6. 共通したテーマを与えて、文献等を調べ、課題を設定してレポートを書き、プレゼンテーションを行なう。

テーマ例

26年度：大テーマ「企業」

- 小テーマ
- 1)戦後日本の産業構造の変遷
 - 2)企業のビジネス戦略と人材育成
 - 3)企業のライフサイクル
 - 4)国際ビジネスと比較優位
 - 5)起業力

25年度：大テーマ「環境」

- 小テーマ
- 1)農業による環境保全と環境破壊
 - 2) 企業が行う環境保全活動－規制と社会貢献
 - 3) 環境と都市政策
 - 4) 若者の雇用環境の改善を考える
 - 5) 東洋と西洋の自然観
 - 6) 再生可能エネルギーの環境問題

最大の課題 レポートの質

文章は、他人の目に触れないと良くない。
じゃあ、誰が添削指導するの？

閑話休題

平成24年度は
担当教員が
添削してみた

担当者談 「死にそうでした」

ならば、どうする？

大前提として、担当教員はローテーションで
交替するため、属人的な要素は廃したい……

全員が金八先生ではないので……

そこで、平成25・26年度の2年間、
上級生に添削アルバイトをさせてみた

添削する学生に研修ワークショップを
行なうことで、自らの作文力アップも
期待できる

ワークショップは
大学教育機能開発センター教員
国際センター教員
図書館職員
も参加

★最低限してほしい添削

- ① コメント数は最大8個
- ② 誤字・脱字、接続詞は文字の色を赤にする(コメント数に含まず)
- ③ コメントの優先順位
 - 1) 問題意識・テーマが首尾一貫しているか
 - 2) レポートの構成(序論－本論－結論)
 - 3) 言葉の定義
 - 4) 主語と述語の対応関係
 - 5) タイトルと在籍番号、氏名
 - 6) 段落の長さ
 - 7) 参考文献は確認後、書き方に問題がある場合はコメントする。
参考文献が未記載である場合、参考文献を書くことをコメントで指摘する。

※剽窃は任意

添削例

イノベーションにおいて大学が果たす役割

E14B999Z 小保方晴子

私は、起業力を養う上で創造力やイノベーションスキルを身に付けることは不可欠なことだと考える。そこで、私たちが起業力などの様々なスキルを学べる場である大学は、イノベーションにどのように関わっており、またそこから浮上する日本の大学の課題とは何か疑問に思い、一方米国では学生による起業が盛んであるというイメージが強かったので、文献より比較し、調査した。

結論から述べると、イノベーションの観点から大学が求められているのは、企業や社会が求める人材を適切な措置のもとで教育し社会に供給すること、また基礎的な研究を行って知識を広げることであり、日本で更なるイノベーションを起こしていくための、これからの課題としては大学と企業間での産学連携を活発にし、イノベーションの実現に直接的に関わっていくことである。

大学は、教育機関でありながら研究機関でもある。社会に必要とされる人材を育成し、イノベーションに必要な技術や知識を生み出す。したがって大学はイノベーションにとって欠かせない、重要な役割を担っているのだ。

まず、教育機関という面から考察してみると、「大学は技術者、研究者、企業において経営にあたる者などを教育し産業に供給する。これは、大学の人材育成の機能である。」¹⁾ また歴史的に見ても「日本の大学は、技術者、科学者を教育、産業に供給するとともに、産業が欧米の先進的な技術を導入することを助けることにより、日本の経済発展に大きな貢献をした。」²⁾ つまり、大学で教育を受けた卒業生を産業界に送り出すことはイノベーションの担い手である企業に対する大学の貢献であることがわかる。しかし一方で、「日本の博士課程修了者は学術研究志向にすぎて、企業の環境に適応できないとの批判が報告されている。これはこれまでの大学院博士課程が、大学教員の育成を主目的として編成されてきたことによる。」³⁾ このような課題も抱えており、産業界で活躍できる者に育成する必要があるために適切な教育が行われることが求められている。

次に研究機関という面から、「大学に期待される研究は、伝統的には基礎研究である。知識のホライズンを拡張し、人類の世界に対する共通の理解を広げる基礎的研究を行っていくことが大学の一義的な使命であり、それに対して公的な支援がなされる。」⁴⁾ 大学は、もちろん応用的研究も行っているはずだが、新たな知識を生み出すことでイノベーションの実現のためになっているのだ。また、企業で開発が進められ課題の解決に迫られたときには大学の基礎的研究を参照することで知識の向上につながり、産学連携が取られることでより高度な知識が生み出されると考えられる。

ここで、産学連携について考察してみる。「ごく最近まで、工学部など大学の一部を除い

FJ-USER 2014/7/14 22:57

コメント [1]: 一般的になじみのない言語に対しては、その言葉の定義を説明するとよい。

FJ-USER 2014/7/14 22:59

コメント [2]: 同上。
読み手がその分野に関してあまり知識を持っていないこと想定して文章を作成すると上記の事を心がけることができる。

FJ-USER 2014/7/14 23:10

コメント [3]: イメージではなく実際の統計等に基づいているとなお良い。

FJ-USER 2014/7/14 23:11

コメント [4]: 文献より比較し〜とあるが本論内で米国との比較が述べられているだろうか？

FJ-USER 2014/7/14 23:00

コメント [5]: 序論—本論—結論を意識しているのは良いが、一行空ける必要はない。

FJ-USER 2014/7/14 23:05

コメント [6]: したがって〜とあるが、それ以前の二つの文章との因果関係が成立しているだろうか？

て、大学全般としては、産業界との協力については関心が低く、むしろ、これに対して否定的な雰囲気があった。大学の教官の評価は産業界への貢献は評価されず、また国家公務員であることもあって産業界との交流には制約が課せられていた。結果として、教官個人と企業との間のインフォーマルな関係が大きな役割を果たすことになった。」⁵⁾ しかし、こうした問題を受け、様々な制度整備が行われた結果、民間企業との共同研究は急速に増加しているようだ。ただし、大学と産業界との関係は複雑なようで「①人事交流を促進することに関連する施策、②知的財産権、③より透明な産学連携を樹立すること」⁶⁾ という3点に留意して、これからの産学連携を促進するような制度改革が求められる。一方、「アメリカでは大学が産業と密接に関わってきたが、最近では産業の支援というスタンスから一歩踏み出して、大学の研究を利益につなげ、大学自身が利益を上げていく、という姿勢へと向かっている。」⁷⁾ 日本でも、教官や学生自身が起業し教官の研究を産業化していくことが、これからのイノベーションには必要であるし、更なる経済成長のためには不可欠だと私は思う。

大学は様々な点でイノベーションの実現にとって重要な役割を果たしている。特に産学連携については、その重要性をより多くの人が意識し、それだけでなく大学と産業界との関係の複雑さを十分に理解したうえで、産学連携が活発になるように制度を改善、実施されていかなければならない。社会の変容とともに、大学が果たす役割も変化する。大学は長期的な視点も持ち、イノベーションにおいて新たな産学との関係を築いていくことが求められる。

1)一橋(2004)、389 ページ。2)一橋(2004)、393 ページ。3)一橋(2004)、404 ページ 4)一橋(2001)、216 ページ。5)一橋(2004)、394 ページ。6)一橋(2004)、409 ページ。7)一橋(2004)、398 ページ。

参考文献

一橋大学イノベーション研究センター(2001)『知識とイノベーション』東洋経済新聞社
一橋大学イノベーション研究センター(2004)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社

FJ-USER 2014/7/14 23:16

コメント [7]: 引用の仕方は© Word の引用機能を利用するとより見やすいかもしれない。
また、本論で引用が少し多く使われているため、引用元の資料を要約したものを載せるなど工夫するとなお良い。

FJ-USER 2014/7/15 2:18

コメント [8]: 参考文献の書き方は配布資料を参照のこと。

新入生の感想（NBASのリフレクション）

Q. 前期を振り返り、印象的だった講義や体験を教えてください

前期の必修のスタディスキルズが印象的でした。大学に入り書くことが多くなるレポートの書き方やプレゼンテーションの仕方まで学ぶことができて、大学がどのような場所なのか少し理解することができた気がします。また図書館の有効的な使い方も学ぶことができて、これからの大学生活に必要な知識を最低限学ぶことが出来た気がします。

担当教員の評価

1. 脱落者は115名中、4名（夜間主は19名中2名）
2. 新入生で、添削結果の最終レポートへの反映は、大きく修正したのは2割程度。逆にほとんど修正していないのが1割程度。
3. 上級生の作文力が向上したかは不明。アンケートなどでは有用だったと回答するが……。
4. 教員は、添削ワークショップ担当の労力だけでシステム化が図れた

新入生・上級生・教員の三方一両得？

3年間の改善を踏まえて

平成27年度から新規科目開講
「アカデミック・ライティング演習」

25・26年度に開催した
ワークショップを拡充

アカデミック・ライティング演習

シラバスの「学習の到達目標」

設定した課題に対するレポートを作成する過程で、同じ課題で書かれている経営学科1年生のレポートを添削する。他人のレポートをチェックすることで自らのレポートを見直し、学術的作文作法を習得することが目標。

ただし、これで完成形かは不明。

おそらく、今後も大小さまざまに
改善していくことに。